

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

鹿角市教育委員会

I 実施の状況

1 調査の目的

- (1) 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 各教育委員会、学校等が、(1)及び(2)の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施対象学年…小学校第6学年、中学校第3学年

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査
 - ・小学校：国語、算数
 - ・中学校：国語、数学、英語
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

4 実施期日…令和5年4月18日（火）

(小学校の質問紙調査、中学校の英語「話すこと」は別日で実施)

II 教科に関する調査の結果

1 教科別の状況

- ・小学校においては、国語、算数ともに概ね良好な結果であった。
- ・中学校においては、国語、数学で概ね良好な結果であったが、英語では課題が見られた。

2 領域別の状況

- ・小学校の国語では、「書くこと」が良好であったが、「情報の扱い方に関する事項」に課題が見られた。
- ・中学校の国語では、「読むこと」、「我が国の言語文化に関する事項」が良好であった。
- ・小学校の算数では、「変化と関係」に課題が見られた。
- ・中学校の数学では、「関数」「データの活用」が良好であったが、「グラフを事象に即して解釈すること」に課題が見られた。
- ・中学校の英語では、「書くこと」「話すこと」に課題が見られた。

III 質問紙調査の結果

- ・小・中学校ともに望ましい生活習慣や学習習慣の定着が図られ、豊かな人間性等が育まれている状況が見られる。
- ・本市の課題であった「児童生徒の自己肯定感」については、小学校においては、全国と同程

度で、中学校においてはやや課題が見られた。

- ・「地域の行事への参加」については、小学校においては、非常に良好な結果であり、中学校においては、全国と同程度であった。
- ・「地域や社会への貢献」については、小・中学校ともに非常に良好な結果であった。
- ・「授業における学習用端末などのＩＣＴ機器の使用率」については、小・中学校ともに非常に良好な結果であった。

※上記以外に、鹿角市教育委員会の施策と関連のある質問紙の結果については、以下のとおりである。

1 特色ある学校づくり支援事業に関する状況

- (1) 「将来の夢や目標をもっていますか。」という質問項目については、小学校においては、概ね良好な結果で、中学校においては、やや課題が見られた。

2 「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善に関する状況

- (1) 「学級の友達との間で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」という質問項目については、小・中学校ともに良好な結果であった。
- (2) 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」という質問項目については、小・中学校ともに良好な結果であった。

IV 今後の市教委の施策の方向性

これまで取り組んできた施策が、概ね良好な成果につながっている。特に、地域や社会への貢献については、児童生徒の意識が高く、「ふるさと・キャリア教育推進事業」や「特色ある学校づくり推進事業」、「ふるさとかつの絆プラン事業」などの取組が成果として表れている。今後はこれらの事業を通して、児童生徒の地域行事への参加意欲がさらに向上するよう各事業の一層の充実を図っていく。

※上記以外に取り組んでいる事業

- ・児童生徒学力向上対策事業（教科別学力検査、学習集団アセスメント hyper-QU）
- ・外国語指導充実事業
- ・ＩＣＴ活用教育事業